

(財)日本ユニセフ協会佐賀県支部通信 第22号 平成21年10月

事務所：佐賀市水ヶ江4丁目2-2 TEL&FAX 0952-28-2077

e-mail [unicef-saga@ams.odn.ne.jp](mailto:unicef-saga@ams.odn.ne.jp)

URL <http://www.2.odn.jp/unicef-saga/>

§ § § 支部通信はホームページでもご覧いただけます

## おかげさまで5周年(佐賀県支部)

## おかげさまで15周年(佐賀県友の会)

私どもが佐賀の地でユニセフ支援活動を始めて、早いもので今年で15周年になります。佐賀県支部となって5周年です。それを記念いたしまして9月26日にJICA九州佐賀デスク、佐賀市国際交流協会、佐賀新聞社様のご協力をいただき、記念事業「100人でする100人村 in 佐賀」のイベントを実施させていただきました。皆様のご協力で大盛況でした。今回は感謝をこめてそのご報告をさせていただきます。





## ご挨拶

(財)日本ユニセフ協会佐賀県支部  
会長 中尾 清一郎

本日は **100** 人村にご参加いただきましてありがとうございます。みなさんが **100** 人村の考え方に賛同して集まってくくださったことに、心からお礼を申し上げます。

ここでユニセフの活動について少しお話をいたします。ユニセフって何となく聞いたことがあるという方もいらっしゃるかと思いますし、アグネス・チャンさんの活躍などによって、世界の厳しい状況下にある子どもたち、あるいは女性たちのために活動している国連の機関だということはご存知の方もいらっしゃるかと思います。

私みなさんに是非お話したいのは、我々は今日貴重なプライベートな時間を使ってここに集まってきて、世界の人々に思いを馳せようとしています。そのなかで、なぜ日本がこんなに豊かで、しかし、世界には貧しい国があるのかということに気がきます。一方で、我々は普段はとても贅沢な、エネルギーをたくさん使う生活をしています。それでもなお足りなくて、将来が不安だとか、政治が悪いとか、あるいはマスコミが悪いということをよく口にします。それはひょっとしたら矛盾していることなのかもしれないということに気付いていただきたいと思います。

先進国と呼ばれる国に暮らしている人間は明らかに物質的には恵まれているのだと、しかし、それはなぜかという世界への一体化が良くも悪くも進んで、経済とか金融という一見我々の生活とは関係が無い、あるいは、お金持ちや頭のいい人、ずるがしこい人たちの世界の話だと思っていることと、我々は無関係ではられない世界に生きてしまっているということです。そのことをどうか考えてみてください。

今日はみなさんと **100** 人村を体験することによって、世界の意外な一面、人の温かさと陰の部分の両方があると思えます。どうかその気持ちをもってお家に帰って日々の生活を見直してみてください。きっと新たな気付きがあることかと思えます。

この **100** 人村にご参加いただいたみなさんに改めてお礼を申し上げまして、ご挨拶に代えさせていただきます。



**100** 人村に入る前に手の消毒



入村受付



パネル&世界地図の色々

# 100人でする100人村in佐賀

期 日 : 2009年9月26日(土)

会 場 : 佐賀大学文化教育学部附属小学校体育館

ファシリテーター : 桜井高志さん

(桜井・法貴グローバル研究所代表)

共 催 : 日本ユニセフ協会佐賀県支部

JICA九州佐賀デスク

佐賀市国際交流協会

佐賀新聞社

後 援 : 佐賀県教育委員会 佐賀市教育委員会

佐賀県小中学校校長会

佐賀県高等学校校長協会

佐賀県PTA連合会 NHK佐賀放送局

サガテレビ ボーイスカウト佐賀県連盟

ガールスカウト佐賀県支部

ユープさが生活協同組合

佐賀県青年海外協力協会

協 力 : 佐賀大学文化教育学部附属小学校



100人村ツアーガイドのさくちゃん

◆「100人でする100人村in佐賀」には、千葉県・愛媛県・鹿児島県・宮崎県・大分県・福岡県など県外からの参加もあり、116人の入村者がありました。村人は、小さな子どもから高齢者まで、まさに「村の住人」そっくりそのままの年代構成でした。他にギャラリーとしての参観者もあり、広い体育館は熱気に包まれました。

◆週末にもかかわらず100人村においてくださった多くの皆さま、イベント開催にあたってご後援、ご協力いただいた各団体の皆さま、そして、イベントを支えてくださった多くのボランティアの皆さま、大変ありがとうございました。



↑ 喉がかわいた。水はどれ? : 識字



↑ 大陸別に分かれて..仕事に取り組みますが...



【アンケートより】 (今日気付いたことや、発見したこと、思ったこと)

- ・公平と不公平の意味がわかってよかった。(小学生)
- ・世界の現状がよくわかった。世界の何人も子どもたちが栄養不足によって亡くなっていて、とてもかわいそうだった。(10代)
- ・実際に会場内で見える形で世界の格差を感じることができてよかった。(20代)
- ・参加型の勉強ができてとても楽しかった。友達とかにも今日知ったことを教えてあげたくなった。(20代)
- ・世界の現状など知っているつもりでいたが、今日のお話を聞いてまだまだ甘かったと思った。今自分にできることを少しずつ実行していけたらと思う。学校の子ども達にも伝えたい。(20代)
- ・アフリカ(エチオピア)の村人を経験し、ソマリア沖で海賊をする気持ちがなんとなくわかった。富める国から富をもらってもいいじゃないか…という気持ちが湧いてきた。(30代)
- ・100人ってどんな100人が集まるんだろうと思ってきてみたが、小さい子どもから高齢の方まで、老若男女いろいろな方が来られていて、本当に100人村の感じで面白かった。桜井さんのガイドは本当に楽しくあっという間の3時間だった。今日の気づきを日々の生活の中でも考えていきたいと思う。(30代)
- ・子ども(3歳・1歳)にとってはちよっぴり長かったようだが、大人にとっては短く感じた。日本人としてできること、大人として子どもたちのために考えなければならないことを短い時間だったが考える機会になった。
- ・子ども(小5)が学校でちょうど100人の村について考える授業を受けて興味を持っていたので、参加してみた。インドネシア人の身になって考えることができ、不公平さと自分の毎日の生活がいかに豊かなのかを痛感した。無駄をなくして少しでも世界のことに役に立てる生活に切り替えたいと思った。(40代)
- ・今日の桜井先生の案内で、世界の今をわかりやすく教えていただき、考えなければならないことがたくさんあることを改めて感じた。私は生徒会を担当しているが、子ども達と一緒に、少しでもこれからの私たちにできることを実行していきたいと思う。(40代)
- ・現世に地球上にあまりにも貧富の差がありすぎ、互いの助け合い精神が必要である。かつて日本も貧国の時代があったと思う時に、人ごととは思われない。(60代)

◆ 計算ゲーム風景



← 計算機を駆使する先進国チーム

筆算で悪戦苦闘の開発途上国チーム →



## 活動報告

### 募金贈呈式

6月17日（水） 中原小学校にて

- ◆ 中原小学校運営委員の5・6年生の皆さんは、ユニセフ募金活動に取り組みました。

5月12日・14日・15日の3日間、朝の時間に全校のお友だちに協力を呼びかけました。その結果、10,219円もの募金が集まりました。朝会で、運営委員の皆さんから「みんなが募金をして集まったお金です。世界中で困っている人々を助けるために使ってください。」と手渡しがありました。

- ◆ 募金贈呈の後、蚊が運ぶマラリアによって30秒に一人の割合で子どもの命が奪われていること、その予防として、ユニセフはマラリア予防の処理をした蚊帳を子どもたちの家族に配り、子どもたちが安心して眠れるようにしていることなどをお話ししました。

### コープさが ネパール指定募金贈呈式

6月30日（火） 佐賀市文化会館にて

- ◆ コープさが第19回通常総代会にて「コープさがネパール指定募金」の贈呈が行われました。

コープさが生協ではお年玉募金や店頭の募金箱に寄せられた436,998円の募金を日本ユニセフ協会佐賀県支部太田記代子常務理事に手渡されました。皆様からご協力いただいた浄財は、ネパールの村の人々が主体的に開発計画を作り、村の状況を改善していくために使われます。ありがとうございました。

### ユニセフ出前授業

7月1日（水） 雲仙市立吾妻中学校（1年～3年）

「平和について考える」

- ◆ 吾妻中学校（生徒数216名）では、ユニセフを通して平和学習が行われました。吾妻中学校では、事前にパネル「紛争下の子どもの人権」やビデオ「小さな涙～サラエボの子どもたち～」「子どもと武力紛争」などを視聴して学習しました。



- ◆ 体育館の屋根を打つ激しい雨音にもかかわらず、生徒の皆さんは、「平和とはどういうことか」「現在の紛争のなかに生きる子どもたちの様子」、DVD「みんなの笑顔をもたせて～イラク～」などを通して、真剣な態度で命の大切さや平和について考えました。

### 【学習を終えて】

- ◆ 今、この瞬間でも紛争などの争いがあることが分かりました。しかも60年たっても解決されていない問題もあるということも分かりました。私たちは平和な生活ができるこの一瞬一瞬を大事にしようと思います。そして、平和を願うだけでなく、行動や言動で示していきたいと思います。

- ◆ 話を聞いてショックなことがたくさんありました。話を聞きながら「私にできることは何だろう」と一生懸命に考えました。私は、平和実行委員という役員です。だから一人でも多くの子どもが助かるようにユニセフの活動に力を入れたいと思いました。



- ◆ 私は親によく我がまを言います。でも、今日のお話を聞いて少しショックを受けました。「こんなにも生きるのに困っている人がいるのに、自分は一体何をしているんだろう。」そんなことを思いました。

## 募金贈呈式

7月1日(水) 佐賀市立赤松小学校にて

- ◆ 赤松小学校ボランティア委員会の6年生が中心となってユニセフ募金活動に取り組みました。その結果、20,226円もの募金が集まりました。
- ◆ 募金贈呈の後、『ビタミンAカプセル』、栄養不良の改善に役立つ『プランピー・ナッツ』、『ORS(経口補水塩)』を实际手にして説明を聞きました。



## ユニセフ出前授業

7月3日(金)

佐賀市立嘉瀬小学校(1年~6年)

「へいわについて かんがえよう」

- ◆ 嘉瀬小学校(児童数240名)では平和集会が開かれ、全校の皆さんが「おりづる」の歌を歌ったり、校長先生のお話を聞いたりしました。その後、ユニセフの資料を通して平和について考えました。
- ◆ 子どもたちに「平和ってどんなこと?」と問いかけ、現在の私たちの日常の暮らしそのものが平和あつてのことだと気づいてもらいました。さらに、現在、世界の各地の紛争下で暮らす子どもたちの現状をお話し、命の尊さ、平和の大切さについて考えました。



### 【学習を終えて】

- ◆ 今も戦争があっているなんて知らなかった。子どもたちが兵士にされるのがびっくりした。
  - ◆ 日本ではふつうに暮らすのはふつうのことなのに、他の国ではふつうの生活ができない子どもたちがたくさんいるんだなあ。
  - ◆ 日本は戦争がないからすごくいいところだと思うこれからも友だちとなかよくしないといけないと思う。
- ◆ 戦争が終わっても、地雷や不発弾で手足を失う子どもがいるなんておそろしいことです。

## ユニセフパネル展&ユニセフグッズ頒布

7月22日(水) アバンセ(佐賀市)

- ◆ 佐賀県生活協同組合連合会主催の『ピースアクション2009 ~子どもたちに、核兵器と戦争のない世界を願って~』が、180人の参加者のもとで開催されました。午前中は、アバンセのふれあい広場で日食観測の後、平和行進が行われました。午後はアバンセホールで「平和のつどい」が開かれ、講演会と平和ミニコンサートがありました。
- ◆ ホールホワイエでは、ユニセフのパネル展・ユニセフグッズの頒布をしました。参加者の皆さまからのグッズ頒布ご協力は3,930円、ユニセフ募金は3,201円でした。ありがとうございました。



地雷の説明を熱心に聞く子ども

## ユニセフ「紛争下の子どもたち」展

8月6日(木)～8月9日(日)

佐賀市平和展において

- ◆佐賀市平和展は、平成4年から開催され今年で18回目を迎え今年も佐賀市立図書館で8月6日から9日までの4日間開催されました。
- ◆豊田直巳写真展「パレスチナの子供たち」、水木しげる戦争展、「STOP」核ナガサキ原爆の傷跡、戦時中の遺留品展示、戦時中の食体験「すいとん」の試食会等が催されました。
- ◆ユニセフコーナーでは、「地雷ってどんなもの?」と題してユニセフの願いパネル、地雷レプリカによるユニセフの活動、地雷廃絶と平和の尊さについて4日間で約350名の来場者の方に説明を行いました。

参加者の声(アンケートより)

- ◆同じ子どもでもぼくたちと違って命をかけて紛争にでていることが分かった。
- ◆日本は平和だけど、他の国ではじらいとか埋めてあって、その被害で足がなくなったり、死んでしまったりしてかわいそうだなと思いました。  
自分は幸せで楽しい生活をしているけど、愛されてないで戦争にもいかされて、自分がどれだけ幸せなのかが感じられました。
- ◆8月6日、今日は私の誕生日です。子どもの時からこの日に生まれた意義はすごいと平和への使命を感じて育ってきました。
- ◆子どものいのちと人権を守るためにユニセフの活動はとっても大切だと思っています。一人でも多くの人々が意識変革をし足元から平和が築かれていきます様に。



## ユニセフパネル展&グッズの頒布

さが国際ふれあいフェスタ '09～手をつなごう!世界と佐賀と～  
9月13日(日) アバンセにおいて



- ◆さが国際ふれあいフェスタ'09会場においてユニセフのパネル展「ユニセフの願い」とグッズの頒布を行いました。約2,500名の来場者があり、ユニセフのブースにいらっしゃった方や他団体の方々との交流ができました。

## 募金贈呈式

9月30日(水) 事務所にて

- ◆佐賀清和中学校では9月8日～9月10日に清和祭が行われ、そのなか9月9日にはユニセフ実行委員会の皆様を中心となってユニセフチャリティーバザーを開催しました。本日はユニセフ実行委員会の岩崎さん、徳永さん、寺田さん、北村さんが担当の西田先生と一緒に、保護者の皆様や生徒の皆様からご協力いただいた募金52,093円を届けてくださいました。



【活動を終えて】◆僕は今回の活動を通して世界の子どもたちの現状を知り、とてもショックを受けました。僕が学校に行って勉強をしているこの瞬間にも世界では子どもたちが苦しんでいるなんて、この平和な日本からはとても想像できませんでした。少しでも手助けになればと思い、清和祭では一生懸命ユニセフ協力を呼びかけました。とても大変な仕事でしたが、1円でも子どもたちが救われるんだと思うとやりがいを感じました。また、来年もユニセフの活動に参加しようと思います。(実行委員長:岩崎)



## 世界の子ども達は今……

### スマトラ沖地震緊急募金 第5報

### 結婚祝いに命を助けるギフトを

### ユニセフ、地震被災後に支援を届ける



【2009年10月8日 インドネシア発】

インドネシア西スマトラ州アガム郡は先週の大地震の後、立て続けに3度の災害に見舞われました。

9月30日、最初にマグニチュード7.6の地震を受け、マニンジャウ湖を囲む山々に位置する小さな村落のほとんどの家が崩壊しました。大地震は2次災害を引き起こし、石灰岩でできた岩壁が陥没し、更にその後、数日降り続いた激しい雨が

引き金となって土砂崩れが起き、残されていたものも泥の洪水によって飲み込まれてしまいました。約2000人ものが近隣の町のマーケットや、鮮やかな彫刻と鋭い水牛の角の形をした屋根で飾られた伝統的な西スマトラ共同住宅に避難することを余儀なくされました。多くの男性は家を守るために村に残りましたが、大きな岩や1.5メートルもの高さの泥の山が道を塞いだため、その村への交通手段はバイクに限られています。

現在、ユニセフが西スマトラ州に緊急支援として送った40,000の衛生用品キットのうちのいくつかを地震影響を受けた人々が受け取りました。この支援物資には、石鹸、洗剤、歯ブラシ、歯磨き粉、タオル、バケツ、そして病気を予防するために必要なもの全て入っています。

#### バケツが大切な結婚祝いのプレゼントとなる時

52歳のマルニ・マジッドは地震の3日後、20歳の娘ミルナさんが共同住宅の中で結婚式を挙げるのを見守りました。せっかくの結婚式でしたが、村に残った父の姿はなく、ジャスミン茶に入れる砂糖もありませんでした。

「バケツに入った石鹸と洗剤が家族にとって豪華な結婚祝いのプレゼントのようです。私たちはこれらの品々がとても必要ですから。」と彼女は言いました。衛生施設の不足による感染症の流行が危惧されています。ユニセフは国際移住機関（IOM）と協力し、アガム郡周辺に衛生用品キットを配布することに努めています。

現在、援助物資の不足はありませんが、道路やコミュニケーションシステムが崩壊、もしくはひどい状態にある地域に届けることが特に困難な状況です。今後も続くと予測される悪天候はさらに支援を届けることを困難にし、また土砂崩れを引き起こす可能性も高いとされています。

1930年に建てられたマーケットでは、どこで体を洗うかについて女性たちが話し合っていました。現在は100km<sup>2</sup>の火山によってできた池を水源として利用しています。そこで、彼女たちは容易に水が保管できる簡易貯水袋と水の浄化剤を求めています。道路の状況が良くなり次第、これら物資はユニセフにより西スマトラ州に届けられる予定です。





©UNICEF

Indonesia/2009/Josh Estey

## 被災地の中心へ緊急支援

現在までに、政府の水道局とパダン州の中心地にある病院に **24** 個の簡易貯水袋が配られ、約 **3,000** の衛生用品キットと給水タンクが州の公共事業省に渡されました。今のところ感染症拡大についての報告はなく、安全な水を確保するための緊急支援の有効性を示しています。

ユニセフは、かつて孤立した村々の住民に対して、いかにして衛生習慣を向上させるかということを周知させるためのリーフレットやポスターも作成しています。これらには、飲み水を煮沸することや手洗いの重要性を訴えるメッセージが含まれています。こういったシンプルな習慣こそが、今回インドネシアを襲ったような災害の後において、人々の命を救うことになるのです。

「こうした小さな改善は、救援活動下においても、基礎サービスが優先付けされていることを被災者に示しているだけでなく、彼らを、潜在的な汚れた水が原因の感染症から守ることにもなります。」と、今回のパダンを拠点とした緊急支援活動を実施しているユニセフの水衛生担当官のクレア・クイレットは言います。

マルニ・マジッドさんは、結婚祝いのギフトとしてプラスチックのバケツを期待していなかったかもしれませんが、それらの支援によって、地震直後の状況で、病気にならずに、死を避けることができたのは、結果的に彼女の結婚生活の最善のスタートだったのかもしれませんが。

## 9万人の子どもたちを対象にした予防接種キャンペーンを展開

【2009年10月28日 スマトラ発】



© UNICEF Indonesia/2009/Vinod Bura

スマトラ西部のパリアマンの保健センターで、はしかの予防接種を受ける女の子。

スマトラ西部を地震が襲ってから一週間、ユニセフ・インドネシア事務所は、被災地の **9** 万人の子どもたちを対象に、はしかの予防接種キャンペーンを支援しました。ユニセフが展開している緊急支援活動の一環として、予防接種の重要性とキャンペーンの実施スケジュールを知らせるため、冊子が配布されたほか、地元の新聞への広告の掲載、ラジオでの呼びかけが行われました。

ユニセフ・インドネシア事務所のアンジェラ・カーニー代表は、このキャンペーンの目的について、次のように説明します。

「こうした状況の中で、子どもたちへのはしかの予防接種は、保健や衛生の面の支援として最も費用対効果の高い方法のひとつです。自然災害の影響を受けた地域では、感染率が急激に高まります。インフラと保健サービス網が崩壊したために、通常の予防接種を受けることが難しくなっているため、こうしたキャンペーンが重要なのです。」

インドネシアは、近年、通常の予防接種の普及率が大きく改善した国のひとつです。しかし、ユニセフと **WHO**（世界保健機関）の最新の推計では、予防接種を全く受けていない、あるいは部分的に受けている子どもたちの数が非常に多い国の第 **4** 位となっています。地震が頻繁に発生するこの地域で、そうした状況によって子どもたちへの予防接種の普及に遅れが生じないようにするのも、ユニセフの重要な活動のひとつです。

【資料提供：日本ユニセフ協会】



@日本ユニセフ協会

手をあらう。

それは、誰にでもできる、

いちばんシンプルな健康を守るための取り組み。

手をあらって、手をたたいて、歌って、踊って、楽しみながら、  
日本の子どもたちにも、世界で起きていることに関心を持ってほしい。

子どもも、大人も。

日本の子どもたちも、世界の子どもたちも。

手をあらう、ということを通して、みんなが手をつなぐ。ひとつになる。

10月15日は、世界手洗いの日です。

#### 佐賀県でも ～新型インフルエンザ予防のために～「世界手洗いの日」に啓発活動

- ◆ 佐賀県でも、ユニセフの「世界手洗いの日」プロジェクトに合わせて、新型インフルエンザの予防啓発活動が展開されています。15日には佐賀県危機管理広報課が、県内16市町40施設の幼稚園・保育園と連携して、子どもたちに正しい手洗いの大切さを伝えました。佐賀市の保育園ではクイズで、唐津市や鳥栖市の保育園では手洗いダンスで正しい手洗いの仕方を勉強しました。
- ◆ 18日には、県内5つの保健福祉事務所ごとに各地区のショッピングモールなどで、県民の皆さまに「新型インフルエンザの予防は、手洗い・うがい・せきエチケット」と『10/15 世界手洗いの日』のロゴの入ったティッシュを配って呼びかけました。



佐賀市城東保育園：ムッピー「みんな手洗い上手だね。」



ゆめタウン佐賀：予防の大切さをPR

Q：「世界手洗いの日」とは、どんな日ですか？

A：.世界の子どもたちに、正しい手洗いの方法を広めるために、ユニセフや世界銀行、水と衛生に関する関係機関や大学、企業など13の組織から成る「せっけんを使った手洗いのための官民パートナーシップ」によって定められた日です。2008年は、国連が定めた国際衛生年であり、衛生に関する啓発活動が積極的に行われました。

これをきっかけとして、2008年から、毎年10月15日が「世界手洗いの日」となりました。世界各地で、せっけんを使った正しい手洗いを普及、促進するための活動が、様々な形で実施されています。

# 20 YEARS 子どもの権利条約

～ 2009年11月20日 子どもの権利条約が生まれて20年になります ～

「子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）」とは、世界中のすべての子どもたちがもっている“権利”について定めた条約です。戦争に巻き込まれてしまったり、防げる病気で命をうななってしまったり、つらい仕事で1日が終わってしまったり…世界には厳しい暮らしをしている子どもたちがいます。

「子どもの権利条約」は、そんな子どもたちをはじめ、世界中の子どもたちの強い味方です。ユニセフもこの条約に書かれた子どもたちの権利を守るために活動しています。

## 「子どもの権利条約」が定めている権利

子どもの権利条約は40条から成り、大きくわけて次の4つの子どもの権利を守るように定めています。そして、子どもにとっていちばんいいことを実現しようとうたっています。

### 1 生きる権利



防げる病気などで命をうばわれないこと。病気やけがをしたら治療を受けられることなど。

### 2 育つ権利



教育を受け、休んだり遊んだりできること。考えや信じることの自由が守られ、自分らしく育つことができることなど。

### 3 守られる権利



あらゆる種類の虐待や搾取などから守られること。障害のある子どもや少数民族の子どもなどはとくに守られることなど。

### 4 参加する権利



自由に意見をあらわしたり、集まってグループをつくったり、自由な活動をおこなったりできることなど。

[資料提供：日本ユニセフ協会]

## 【身近なところでの『子どもの権利条約』】

佐賀市では、市民総参加子ども育成運動「子どもへのまなざし運動」の理念のなかに、「子どもの声に耳を傾け、子どもの権利を尊重する」とうたわれています。佐賀の子どもも世界の子どもも健やかな成長はすべての大人の願いです。皆様の身近なところでは「子どもの権利条約」がどのように活かされているのでしょうか。「わたしのまちの子どもの権利条約」について考えてみましょう。



# ご支援ありがとうございます

立正佼成会唐津教会青年部様 名護屋小学校様 赤松小学校様 ムジークアカデミー様  
国際ソロプチミスト佐賀西部様 吾妻中学校様 ホテルニューオータニ佐賀様 母子草様  
佐賀清和中学校様 ようどう館佐賀校様 ようどう館大和校様 むつごろう祭実行委員会様

リフレイン様 本庄公民館様 三日月小学校様 佐賀リハビリテーション病院様 LOVE FM様  
佐賀市国際交流協会様 いまり法律事務所様 武生西公民館様 大塚製薬佐賀工場様  
カイセイ薬局伊万里駅前店様 カイセイ薬局荒江店様 サニーハウス様 道海島小学校様  
千代田中部小学校PTA様 第一マネージメント様 みのり歯科様 ファイザー株式会社佐賀支店様  
雇用能力開発機構佐賀センター様 さが市民活動プラザ様 住友生命佐賀支社様 佐賀大学秘書室様  
九州木材工業佐賀支社様 九州電力佐賀営業所様 佐賀市役所様 日新公民館様

(2009年6月21日～10月15日)

★ いろいろな形でのご支援ご協力で心から感謝申し上げます。個人のみなさまからもたくさんのご支援をいただいておりますが、平成17年4月1日からの「個人情報の保護に関する法律」施行に伴い、個人の方のお名前の掲載は控えさせていただきます。

## これからの予定



- ① 10月31日(土)～11月3日(火) 有田うーたん祭りユニセフグッズ頒布  
みどりのテラス清水
- ② 11月8日(日) かたりべの里本庄祭 ユニセフグッズ頒布 本庄小学校
- ③ 11月10日(火) 募金贈呈式 鳥栖市基里中学校
- ④ 11月14日(土) 日韓交流ギター演奏会 ユニセフグッズ頒布 佐賀市民会館
- ⑤ 11月17日(火) 出前授業 柳川市矢ヶ部小学校
- ⑥ 11月29日(日) さが元気もんフェスタ “09～ここが元気の発信プラザ～” 佐賀駅前iスクエア
- ⑦ 12月13日(日) 第31回 ユニセフ・ハンド・イン・ハンド  
ゆめタウン佐賀店  
イオンスーパーセンター佐賀店  
バニーズ三日月店
- ⑧ 12月20日(日) 第31回 ユニセフ・ハンド・イン・ハンド  
ジャスコ佐賀大和店  
上峰サティアー  
佐賀玉屋デパート前

ハンド・イン・ハンドについては別紙チラシをご覧ください。

お近くの会場でのボランティアご協力をよろしく申し上げます。